

多くの人たちは変わりたいという願いを抱えています。変わるとはとっても大変なことです。でも流されてしまいやすいので良い方向に進もうと決めていても、そう簡単には変えること、変え続けていくことが難しくなってしまう。流されやすい存在なので、良くないとわかっている、なかなか良い方向に行けないものです。良くない方向や流されてしまっている時に、人のせいに逃げていませんか？また自分は正しいという思いになり、自己義になっていませんか？私は悪くない！と思ひ人のせいにしたり状況などのせいにしたりしていませんか？しっかり自分を見ていかないといけません。最近の子供たちは「ごめんなさい」をなかなか言えなくなってしまっているそうです。「ごめんなさい」出来ないで孤立してしまいます。仲良く、和解するためには、「ごめんなさい」することが必要になります。「ごめんなさい」出来ますか？また後悔してしまう生活をしていませんか？後悔するということは、人のせいに逃げてしまうからです。創世記の中で、ヨセフと言う人が出てきます。ヨセフは父のヤコブからとっても愛されて、兄たちに嫉妬され穴に落とされて奴隷として売られて、エジプトで奴隷として生活することになってしまいました。でもヨセフは正しい生活をしていき、とっても悪い状況になっても諦めなかった、やがてエジプトで大臣というとても偉い人になりました。ヨセフは悪い習慣を取り去るために行動していききました。しかしやがて出会う兄たちは「ごめんなさい」をするのではなく、後悔していました。長男のルベンと言う人は弟達を悔い改めに導くのではなく、正しい事を言えずに流されてしまっていました。皆なでやれば怖くないになっていませんか？正当化してしまいませんか？「ごめんなさい」して悔い改める事が出来るなら、生き方を変えることが出来ます。悔い改める人は正しい人です。「ごめんなさい」する人は、神様に喜ばれます。自分自身をしっかり見つめ、私が悪いと認め、「ごめんなさい」をする必要があります。

### ①「全てに感謝」感謝を忘れた罪

Ⅱコリ7:9-11 今は喜んでいます。あなたがたが悲しんだからではなく、あなたがたが悲しんで悔い改めたからです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだので、私たちのために何の害も受けなかったのです。神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。ご覧下さい。神のみこころに添ったその悲しみが、あなたがたのうちに、どれほどの熱心を起こさせたことでしょうか

「ありがとう」を言うことが出来ますか？「ありがとう」を言うことは難しいと言われていています。謝罪は「ありがとう」という感謝を忘れた罪という表現をした人がいます。隣の人に感謝することが出来ていますか？たとえ悪いことをされたとしても「ありがとう」という思いを忘れてはいけません。「ごめんなさい」と「ありがとう」と言うことが出来れば必ず良いものに変えられていきます。後悔は悲しみをもたらすだけです。後悔ではなく神様の前に悔い改め方向転換して、「ありがとう」「ごめんなさい」をしっかりしていきましょう。

### ②「正義は胸当て、剣は×」人との関わりには信念が

エペソ 6:14-17 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のこばを受け取りなさい。

神様は正しい思いを私たちに与えて教えて下さっています。でも正義は人に押し付けて、責めるものではなく、自分の胸当てとして着けるべきものです。正義を剣として相手に向けていませんか？正義は相手をさばくものではありません。さばいたら、さばかれてしまいます。私たちは赦されたと者として人さばくのではなく、愛の言葉を相手に語るものになっていきましょう。

### ③「和解とごめんなさい」自分にとって相手が必要と知る

マタ5:22-24 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会議に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。だから、祭壇の上に供え物をささげようとしているとき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、供え物はそこに、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。

自分にとって相手が必要だから「ごめんなさい」することが出来ると思います。私はあなたがたが必要です。「愛せ」というからではなく、相手が必要だから愛せます。人を悪く言う言葉だけを地獄に落として、神様の元に戻って素直に「ごめんなさい」をしていきましょう。

エペソ2:13-17 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

2:17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。

相手を責めてしまう自己義に生きずに「ごめんなさい」していきましょう。素直に謝ると相手も理解してくれると思います。「私にとってあなたがたが必要」としっかり知って「ごめんなさい」を言っていくでしょう。（要約者：渡辺 将宏）